【一般書/小説】 帆神

玉岡かおる 著

播州高砂の漁師から身を起 こし、大胆不敵な船乗りとし て名を揚げた松右衛門。海商 にのし上がり、やがて北前船 の帆を革命的に改良して、江 戸海運を一変させ…。知られ ざる快男児を活写する長編歴 史小説。

出版社…新潮社

【児童書】

エヴィーのひみつと消えた動 物たち

マット・ヘイグ 作

エヴィーは動物が大好き。 でも、ただ動物が好きってだ けじゃない。エヴィーには、 特別なひみつがあって…。動 物や環境問題、家族愛、やさ しさ、いじめ、友情などを描 いた、ちょっとハラハラ ユーモアたっぷりの物語。

出版社…ほるぷ出版

書館の







古河図書館

【一般書】

池澤夏樹 編

出版社…毎日新聞出版

【絵本】 ばあばにえがおをとどけてあ

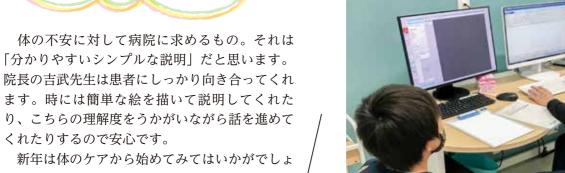
ばあばはこのごろ元気がな い。ケーキも焼かないし、お 部屋もほこりだらけで、笑わ …。「よろこび」の意味を教

わたしのなつかしい一冊

本当によい読書の記憶は 「昔」の中にある。若い時に 読んだものほど心の深層に定 位している。人気作家ら50 人が、何度も読み返す<人生 の一冊>を語るブックガイド。

コーリン・アーヴェリス 文 なくなった。ばあばを笑顔に してあげようと、ファーンは 「よろこび」を探しに出かけ えてくれる、あたたかな物語。

予防医療のみならず、疾病の早期発見に よしたけ内科・消化器外科クリニック











を差して通り抜けたのだという。りかかってくるので、わざわざ傘サラサラという音とともに砂が降 ありました。そこを夜に通ると、 でも砂が降ってくるという場所 空からではありませんが、 れに いたようです。 しても、 やメ ッセー セージであれ つです。それが は、なんらかの 古河 が

さされたが、よくわからないといない。世の変調の兆しかともうわごろには警察も動員されたがやま うのである。

を「天狗つぶて」と呼んで、妖怪たといいます。江戸時代にはこれに石が雨のように打つこともあっもあり、鎌倉時代には京都の御所 きな石を飛ばす く山のなか、 百鬼拾遺』によれば、 の一つとして人々は捉えてい 石が落ちてくることがあったとき 時代には毎夜のごとく屋根に瓦や て珍しいことではなかったようで るというこのような現象は、 大きな音を伴 の上から石を投げ落とす 記録をたどってみると、 当時の妖怪図鑑 ばすものとし、天狗が、大きな音とともに大によれば、魔風の吹 って石が降ってく 古た 奈良 決し

まったという。翌1日も午前1時、大況となり、みんな逃げ出してして、瓦の破片が山と積り」というが「天井、右左等八方から奇怪なが「天井、右左等八方から奇怪なが「天井、右左等八方から奇怪なが「天井、右左等八方から奇怪なが「天井、右左等八方から奇怪なが「天井、右左等八方から奇怪なが「天井、右をではいたが、まったという。翌1日も午前1時 が「天井、右左等八方から奇怪張り込んで戸締まりもしてい はっきり分かりませんが、当に天狗が石を投げていたかれています。このような

おり、福島県会津地方ではこ地でもそのような話は伝えら

、福島県会津地方ではこれをきり分かりませんが、全国各きり分かりませんが、全国各てかが石を投げていたのかています。このような形で本ています。

「天狗礫石」と呼んでいたようです

の原因が海の中の火山から噴出しいう。情報化社会の今でこそ、そ着して、船の運航を妨げていると

軽石が大量に日本列島各地に漂

なんでも降ってくる

魚、肉、毛、金、薬など、降って川如見著)によれば、灰や砂から江戸時代の天文書『怪異弁談』(西 や瓦だけではなかったようです。 欲しいものと、 雨のように降ってくるのは、 なんでもありのようです そうでないものな

じてい

はそうは言って

りは言っていられませんいたのですが、軽石につ

られません。今軽石について

天狗つぶて

世からもたらされるものとして、

られたことでしょう。

か

つては常

大昔ではただ不思議な現象と捉え たものと知ることができますが、

こうした漂着物にありがたみを感

回はどことも知れぬとこから飛ん

でくる石について

和 0 止まの魔か、呪ひ の降る 世

▲「昭和の世に石の降る家」 (昭和2年4月15日「関東実業新報」)

狗のつぶてでなかったことがなに な確率で当たったこともある。

ン。大人になってからは、奇跡的へ落下物がポタリ。そう、鳥のフ鳥が通り過ぎるとともにその耳元

布団に横になっていたら、真上を

子どもの頃、

音は着信音

めにも、 何か 音が伴 要だったのではなかろうかと。 ガラガラ・サラサラなどの音も必 くるということには、 いず その送信に気づいてもらうた の兆し って 着信音としてパラパラ 庭先に干していた

ば、

屋根へ打つ天狗礫や小夜時雨

ンがよいとでもいうのでしょうか。 よりですが、果たして、これをウ

古河歴史博物館学芸員 立石尚之 卿山

【病院概要】

うか。

くれたりするので安心です。

15

河壁史

昭和の

世に

「天狗つぶて」

の降る家

軽石漂着

しが目に留まりました。古河近在東実業新報』昭和2年)という見出「昭和の世に「石の降る家」(『関 片が降ってきたのだという。 のある家に、3日ほど石や瓦の破

昭和の世に石が降る

95年前の新聞を読ん

で

いたら

をたてて拳大の石や瓦。 分おきに数回にわたり、

12 日 に は 大きな音

月11日の夜10時ごろから約30

後3時ごろから5分おきに6

げる

出版社…評論社